



鳥取県立倉吉東高等学校創立110周年記念

切手シートの写真解説

(敬称略)



現在の倉吉東高正門 昭和42(1967)年以降

創立60周年の前年、新校舎が完成し堺町から現在の下田中町へ全面移転した。校舎移転は、校舎の老朽化、校地の拡張困難、鉄道や産業道路の騒音などにより昭和35(1960)年から検討されてきた。移転によって、校地面積は約2倍(43,000㎡)となった。正門から玄関に至る庭園は、周年事業ごとに整備され、充実したものとなっている。



旧校舎正門と玄関 昭和33(1958)年から昭和41(1966)年まで

校舎玄関は、開校当初校地の正門とともに北側に位置していたが、昭和33(1958)年に南側に移された。体育館の新設から始まった校舎・教室等の改造や移転など、学園整備事業の一環でもある。玄関前の庭園を整備するにあたっては、倉中30回卒の名越多喜雄氏の厚意で270坪の土地が寄付された。



倉吉中学校開校記念式典&入学式 明治42(1909)年4月15日

設立認可を受け、開校にこぎつけるまでに様々な困難があった。一つは土地の確保で、これは当時大阪で事業家として成功していた山口嘉蔵が、自身の所有する土地を県に寄付する形でクリアできた。もう一つは校舎の確保で、新校舎の完成は翌年を待たなければならなかった。初年度は成徳尋常小学校の一部を仮校舎として使用している。写真は提供された校地での式典の様子。建物としては唯一武道場が見える。



校旗 昭和52(1977)年

昭和53(1978)年の創立70周年を迎えるにあたり、同窓会館「鴨水会館」の竣工、校旗の新調が行われた。旗の地色は紫紺。永く正規なものがないまま校章の入った応援旗をもって代用してきたが、この年に育友会(本校PTA)より寄贈された。現在に至るまで入学式卒業式等で使用されている。



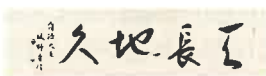
創立100周年記念式典 平成20(2008)年

式典はこの年11月7日に鳥取県立倉吉未来中心大ホールで行われた。写真はこの時の記念演奏で、本校オーケストラ部(倉吉フィルハーモニー管弦楽団)と、合唱部による「ハレルヤ」大合唱の場面である。

さかの しげのぶ

坂野 重信 倉中第24回(1935年)卒業

旧制倉吉中学、旧制松江高校を経て東京帝国大学に進学、陸軍経験の後建設省に入り建設事務次官などを歴任。昭和49(1974)年に自民党から参議院選挙に出馬して初当選。竹下内閣の時、自治大臣兼国家公安委員長として初入閣。続く宇野内閣でも再任された。書にも堪能で、正統的な書風で知られる。写真題字は「天長地久」。



またの かんじ

前田 寛治 倉中3回(1914年)卒業

旧制倉吉中学で美術教諭の中井金三(東京美術学校出身)にデッサンを学ぶ。東京美術学校(現東京芸術大学)に進学し、卒業後私費でパリに留学。写実主義を提唱したクールベの影響を受け、帰国後は留学時代の仲間と「1930年協会」を結成する。独自の写実主義を提唱し帝展で特選・美術院賞を取るなど画壇をリードし活躍したが33歳で夭折した。写真は留学費支援を受けた同級生への恩返しとして帰国後母校に寄贈したもので、題名「橋・セーヌ河畔」。留学期前半の作。



おおさか ひろみち

大坂 弘道 倉東6回(1955年)卒業

東京学芸大学美術科に進み、中学校美術教諭となる。一方で木工芸を独学で学び、昭和54(1979)年日本伝統工芸展への出品作が日本工芸会総裁賞となった。これにより宮内庁から正倉院宝物の復元模造を委託され、完成させた功績により、平成9(1997)年に鳥取県出身者として初めての人間国宝(重要無形文化財「木工芸」保持者)に認定された。写真の作品は黒柿蘇芳染螺鈿荘香小塔【天竺の音】平成29(2017)年作。氏の作品のほとんどは倉吉博物館に寄贈されている。現在倉吉市名誉市民。



ゆむら ひかる

湯村 光 倉東17回(1966年)卒業

東京芸術大学に進み、澄川喜一教授(のちに東京芸術大学学長)に彫刻を学ぶ。卒業後フランスの国立パリ美術学校に留学。昭和58(1983)年の第10回現代日本彫刻展で神戸須磨公園賞を受賞等、数々の受賞歴を重ね、国内、県内に多数の野外彫刻がある。平成16(2004)年にはオランダ、アムステルダムで個展を開催。本校には創立60周年と創立100周年に彫刻を寄贈。写真は100周年時玄関前に設置された作品の【発芽】



ふくだ こうじ

福田 紘史 倉東10回(1959年)卒業

高校時代はバスケットボールをしていたが、東京大学入学後ボート部に所属。昭和35(1960)年のローマオリンピックにシェルフォアのクルーの一員として出場。本校初のオリンピック選手となった。昭和36(1961)年には全日本選手権のエイトで優勝し、翌年スイスで開催された世界選手権にも出場している。



わだみ さとみ

和田見 里美 倉東57回(2006年)卒業

高校入学後自転車競技を開始。ポイントレースで全日本選手権の優勝など、数多くの上位入賞を果たした。中京大学に進学して更に競技力を高め、平成19(2007)年に南アフリカで行われたB世界選手権ポイントレースで優勝。翌年北京オリンピックに出場した。



第1回倉東学園祭モニュメント 昭和40(1965)年

機械科・電気科が工業高校へ、商業科が産業高校へ相次いで独立した後、生徒会活動の活性化を図って創設されたのが「倉東学園祭」である。東大「五月祭」、長野県松本深志高校の「とんぼ祭」を参考に本校の独自性を盛り込んで作られた。現在でも生徒たちが年間最大のエネルギーを注いで実施している。開催期間も県内では最も長い、平成30(2018)年度で第54回目を迎えた。



甲子園選抜大会初出場 昭和63(1988)年

本校の硬式野球部創部75年目の年に、春の選抜甲子園(第60回)に初出場。地元のほか、関東・関西等県外在住の同窓生が大応援団を組んで球場に駆けつけた。初戦対市立船橋戦で10-3、二回戦対東海大山形で1-0と勝ち進み、三回戦対桐蔭学園(神奈川)で敗れたものの、部員数、打率などデータとしては弱小であった本校チームの活躍は、「さわやか野球」の旋風を巻き起こした。翌年の選抜大会にも連続出場している。

